

【主催】 一般社団法人神山つなぐ公社

「小さな自然再生」研究会 / 日本河川・流域再生ネットワーク

【協力】 神山町 / 滋賀県立大学環境科学部・瀧研究室 / 公益財団法人リバーフロント研究所

「小さな自然再生」現地研修会（第15回）開催報告

2022年9月10日（土）～11日（日） 徳島県神山町・鮎喰川



初日の座学研修



小さな自然再生の実践1



小さな自然再生の実践2



研修終了後の記念撮影



日本河川・流域再生ネットワーク

2023年3月



公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。

「小さな自然再生」現地研修会（第15回）

開催報告

2022年9月10日（土）～11日（日） 徳島県神山町・鮎喰川

はじめに

2022年9月10日（土）～11日（日）に、第15回「小さな自然再生」現地研修会を徳島県神山町の吉野川流域鮎喰川にて開催致しました。

初日に予定されていた「神山の先達との川遊び体験」は雨と増水により残念ながら中止となり、夕方からの座学研修から研修会がスタートしました。また、翌日は鮎喰川の3カ所で、バープを造り、生き物を観察し、川底を磨き、伝統漁法を体験するなど小さな自然再生の実践研修を行い、これから神山町内でできる小さな自然再生の取組みについて参加者とともに学びあいました。

この開催報告は、研修会の参加者とともに学び議論した内容の一部を、当日の写真を中心に皆様にご紹介するものです。

本研修に協力頂きました関係者各位に厚く御礼申し上げます。

2023年3月

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

開催概要

- 開催日時： 2022年9月10日（土）～11日（日）
- 開催場所： 徳島県神山町 <座学：神山町農村環境改善センター／現地：鮎喰川>
- 参加者： 52名
- 主催： 一般社団法人神山つなぐ公社、「小さな自然再生」研究会
日本河川・流域再生ネットワーク
- 協力： 神山町、滋賀県立大学環境科学部・瀧研究室
公益財団法人リバーフロント研究所

プログラム

9月10日（土）

(17:00～19:30) <座学研修> 「流域治水」と「小さな自然再生」

- ・開会挨拶： 後藤正和・神山町長
- ・講演： 流域治水と小さな自然再生（瀧健太郎：滋賀県立大学環境科学部）
- ・意見交換：小さな自然再生の具体事例を学びながら神山町でできることを考える

9月11日（日）

(9:00～15:00) <現地研修> 小さな自然再生の実践

@鮎喰川・広野地区／下分地区／神領地区

鮎喰川の3箇所で、石を積み、川を耕し、川底を磨き、多様な流れと魚の棲み処づくりを実践。

(15:00) 閉会 ※神山温泉裏で現地解散

開会挨拶



はじめに、一般社団法人神山つなぐ公社の田中さんより、今回の研修会の開催経緯や趣旨について説明を頂きました。続いて、開会挨拶として、神山町の後藤正和町長より神山町と鮎喰川との深い関りについてご紹介頂きました。

座学研修（1日目）



流域治水と小さな自然再生

（瀧健太郎：滋賀県立大学環境科学部）

179枚ものスライドをご用意頂き、全国で取組まれている小さな再生の事例紹介とその魅力や工夫、環境と防災の両面からの川における体験型学習の取組、また流域治水と小さな自然再生の親和性などについてご講演頂きました。

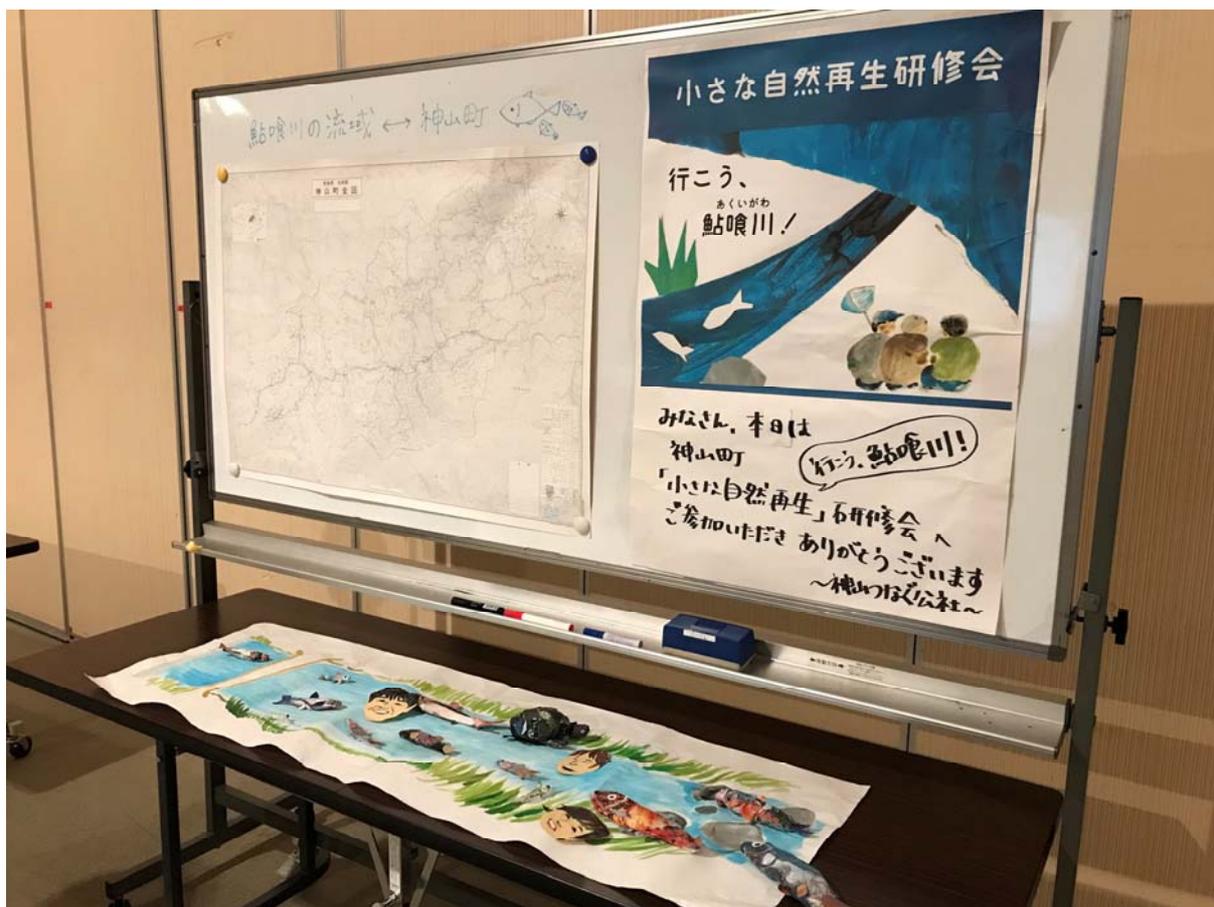
⇒ 講演資料は巻末「参考資料 1」を参照



質疑応答の様子



後藤町長からも鮎喰川の補足説明



現地実践（2日目）

テーマ：「小さな自然再生のワクワクで地域と川をつなげよう」

研修会の二日目は、鮎喰川の3箇所（広野地区／下分地区／神領地区）をフィールドに、これから神山町できそうな小さな自然再生の取組として、石を積んでのバープ工づくり、川を耕し川底を磨いての環境改善、多様な流れと魚の棲み処づくりを実践するとともに、川に棲む生きものについても観察しました。



各実践先での素敵な案内看板

【広野地区での小さな自然再生の実践】



広野地区でできそうな小さな自然再生について滋賀県立大学・瀧先生よりガイダンス



石を積み上げてのバープエづくり



魚類について公益財団法人リバーフロント研究所・白尾講師よりガイダンス



水生昆虫について兵庫県立大学・三橋先生よりガイダンス



【下分地区での小さな自然再生の実践】



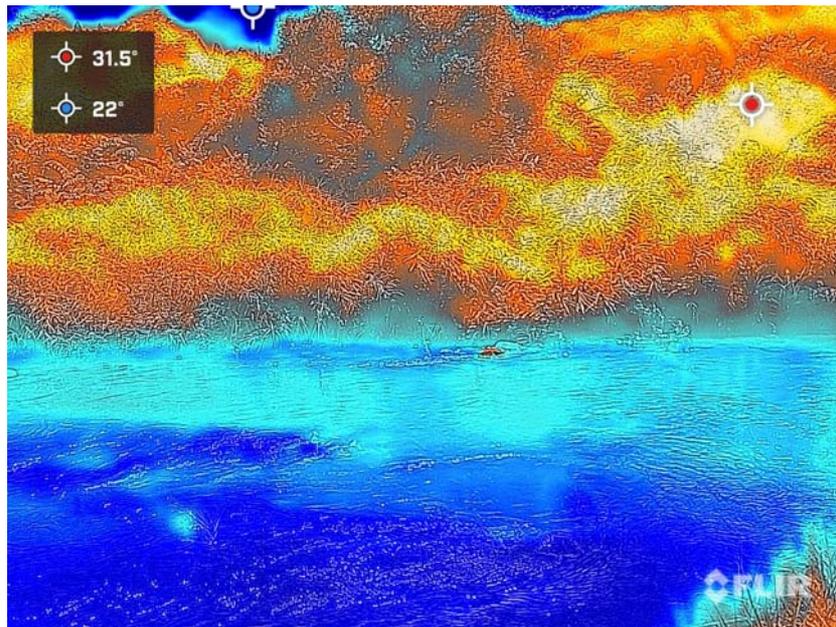
WEEK 神山の下を流れる鮎喰川では金ダワシで石を磨く小さな自然再生



アユが好む栄養価の高い新鮮なコケが生えてくるように石に付着した古いコケを金ダワシで除去



外来種のコカナダモを手作業で除去



サーモグラフィーを搭載したドローンを飛ばして湧水のポイントを搜索（瀧研究室）

【神領地区での小さな自然再生の実践】



神山温泉前にて実践を開始



ここでも石を積んだバープ工で多様な流れを創出



神山の先達の指導による伝統漁法「ごろ引き漁」でジンゾク（ヨシノボリなど）を捕獲



川の恵みを美味しくいただく（ジンゾクの素揚げ）



兵庫県立大学・三橋先生による水生昆虫教室



自らの身体を投げうっての人間バープ工にも挑戦



研修会の閉会式では参加者の感想を共有



小さな自然再生現地研修会終了後の記念撮影



神領地区のコットンフィールドキャンプ場にある「川の図書館」



研修会終了後の運営メンバーによる反省会の様子

参考資料 1 (座学研修の講義資料)

流域治水と小さな自然再生 講演資料 (1/3)

3つのアプローチ

落差をなくす・魚道を改良する
「見直し」では、現地の石や土のうを使用

多様な流れをつくる
「見直し」では、現地の石や土のうを使用

川を耕す
「見直し」では、シャベルや手で掘り返しても、土のうで造ったバープエで流れに変化をつけてもよい

「見直し」は「試験施工」もよいです

「見直し」の結果を参考に再生計画を検討します
よい「見直し」をできるかがポイントになります

河川の自然再生の進め方

- 1) 対象種の生態を知る。**
 - ・ 生息・生育環境
 - ・ 生活環 (ライフサイクル)
- 2) 対象種がいなくなった要因を調べる。**
 - ・ 今昔比較 (その種がいた頃と今の違い) - 環境、社会、人のライフスタイル
 - ・ インパクト-レスポンス関係の整理
- 3) 自分たちでできることを考え、とりあえずやってみる。**
 - ・ 先進事例の調査
 - ・ オリジナルな方法の検討
 - ・ やり直しのきく取り組みをとりあえずやってみる - 試行
- 4) 科学的アプローチで、試行錯誤を繰り返す。**
 - ・ 記録残し、失敗の要因を分析
 - ・ 次の取組を改善

自然再生への挑戦では、“失敗の繰り返し”を覚悟する必要があります。

土のうの作り方

- ① 土のう袋に土砂を6割くらい均等に詰める (20~25kg)
- ② 袋の端のひもを引いて、袋の口を絞る。
- ③ 親指をそえて2~3回まわし、はじめの輪の上からとおし下に引きます。

つくり方にはさまざまな流派があります

土のうの積み方

- ① 縛り口を下流にして置いていきます
- ② 上流側から下流側へ置いていき、縛り口を次の土のうで隠します
- ③ 2段目、3段目の土のうは、半分ずらして積んでいきます

土のうはよく乾かして保管しておけば繰り返し使用できます

落ち葉と川

落ちて行っちゃうのはもったいない...! 落ち葉を川の中に溜めよう!

流域治水と小さな自然再生 講演資料 (2/3)

7

パープエってこんなの

河岸から斜めに設置する**水制**

- 水の流れが変わる
- 寄り洲や瀬・淵をつくる

語源は釣針のかかり

下流
遅い流れ、
速い流れが生まれる

パープエ
土のウ、石積み etc.

川の中の材料で作る

8

YouTube パープエ造り

【パープエ】実際にやってみた

#京都府美山川 #石積み #楽しい #夢中になる #大人たち

9

YouTube パープエ造り

【パープエ】実際にやってみた

#京都府美山川 #石積み #楽しい #夢中になる #大人たち

10

Dec.12/2021 DHI Movie 2 Dual (撮影 泉野 梓穂)

できることから始めよう
水辺の小さな自然再生事例集
人間パープエ (滋賀県大津市 琵琶湖にそそぐ小さな水路)

12

多自然川づくりで
地域づくり・まちづくり

後場と新聞社がコラボで 川づくり・まちづくりー 野田川・岩屋川 (京都府与謝野町)

“土のうと岩だけで川が変わった。
パパ友を誘って遊び場づくりを続けます！”

散歩のついでに
“石をひとつ動かす”川へ
次年度に「川まつり」を企画中

岩屋川 (二級河川野田川支流)

流域治水と小さな自然再生 講演資料 (3/3)

多自然川づくりで
地域づくり・まちづくり
後場と新聞社がコラボで川づくり・まちづくり - 野田川・岩屋川 (京都府与謝野町)

土のうね道
(約20人で30分程度)
各長19号の半粒

除草剤が横行した砂州
10〜20年前のものが埋まり、
剛毛コでなかなか仕方がない

壁を積み込んだ川の淵のコース
(2〜3人で30分程度)

2019.9.23
作業直後の様子

多自然川づくりで
地域づくり・まちづくり
後場と新聞社がコラボで川づくり・まちづくり - 野田川・岩屋川 (京都府与謝野町)

2019.11.16

昨日と比べて川の流れが変わっている。
せせらぎも聞きながら穴はあけてみようかと
考えているのが楽しくてたまらないですよ

ひとりで こつこつ
毎日30分

- ① 簡易水制により、砂州に流水を当てる
- ② 毎日崩れた壁を移動させ、水制を継ぎ足す
- ③ 砂州内の掘削路を徐々に延長しつつ、砂州を縮小

約2ヶ月で固定砂州が
かなり縮小

川の流れひとの
コラボ

できることから始めよう
水辺の小さな自然再生
近江八幡市立馬淵小学校 環境・防災を融合した体験型学習

タナゴパラダイス - 川を楽しむ、大事に思う心を育む

- ・ 数時間の人工土工で、数年間維持できるたまりを造成 - 魚つかみのポイント
- 植生の成長を考慮した河床家動解析にて位置を決定

白馬川のタナゴ (主にヤマタナゴ)
・ 体長 6〜10cm
・ 水流のゆるやかな場所に住む
・ 産卵期にはきれいな水が必要

2018年6月 2019年7月

川の流れ

タナゴパラダイス

水がたまるから水流がゆるやかに
川よりも深さが浅いから小さい魚を
食べる大きな魚が入ってこない

環境・防災
体験型学習

川への「愛」UP!

かいじょうをしない魚などはいけど、
ぼくたちがこまる。ぼくは魚がよること
いたほうがよかったと思う。
(原文ママ)

川の生き物調査のあとに、
まちあるきとヘラゲードマップ作成

Q あなたの住んでいる地区に遊歩道や遊具整備等が実施されたことはありますか？

地区	実施された	実施されなかった
馬淵小学校 (n=346)	84	239
馬淵中学校 (n=68)	4	23
馬淵小学校 (n=82)	17	52

防災力UP!

柴川を守るためにできそうなこと ~ 川の中編

川底の攪乱
→ 川の汚濁の原因のひとつ
→ 川底にたいへんダメージ
・ 体積の多い石やコンクリート
・ 河床の崩壊

川底の攪乱
→ 多量な石の投入
→ 砂や土の流入 (土砂災害)
→ 川の汚濁の原因
→ 河床の崩壊

河川清掃活動の活用・再生
いっしょに、川の再生
・ 河川清掃活動

落ち葉が溜まると
川が元気になる

参考資料 2 (一般社団法人神山つなぐ公社からのメッセージ)

in Kamiyama ▲

[Top](#) > [なんでも](#) > [学び](#) >



「行こう！鮎喰川」

～ 小さな自然再生 研修会 ～



“小さな自然再生” 研修会 「行こう、鮎喰川」 〈その4〉



田中 亜子

学び 2022年11月15日

いいね！

シェアする

ツイート

すっかり秋の神山です。

川面から顔を出した石に、流れてきた落ち葉が留まり、重なり合い、秋ならではの風景が川の中にも生まれる。こんな風に秋を感じられるのも、ここで暮らすシアワセのひとつです。

さて。神山日記帳で、これまでもご報告させていただいてきた”小さな自然再生”研修会「行こう、鮎喰川」！

ついに、最終回です。

お付き合いいただいた皆さま、ありがとうございました。

最終回は・・・

～「小さな自然再生」との出会い、そしてこれから～

.....

「小さな自然再生」に初めて出会ったのは、今から2年前、2020年の秋のことでした。

徳島で「川と人をつなぐ」活動をしている仲間たちから「勉強会をするから来ない？」と声をかけてもらいました。

その勉強会で初めて「流域治水」(※1)という考え方を知りました。

(※1 流域治水とは、気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化等を踏まえ、堤防の整備、ダムの建設・再生などの対策をより一層加速するとともに、集水域(雨水が河川に流入する地域)から氾濫域(河川等の氾濫により浸水が想定される地域)にわたる流域に関わるあらゆる関係者が協働して水災害対策を行う考え方。このときの勉強会では、加えて、本来の流域治水とは川との関わり、「近い水」そして「民衆の自然感」を取り戻すことだと話されていました。)

そして、勉強会の最後に紹介されたのが「小さな自然再生」という取り組みでした。



勉強会からひと月後、「流域治水」や「小さな自然再生」に取り組まれている瀧先生が徳島に来られるとのこと。

仲間から「鮎喰川を案内してみない？」と連絡がありました。

そこで、自然のことに詳しいコットンフィールドキャンプ場のオーナー、森さんにご協力いただき、鮎喰川コモンの下を流れる鮎喰川本流や、鮎喰川の支流のひとつである上角谷川に瀧先生たちをご案内しました。



鮎喰川コモンの下の鮎喰川（文化橋の少し下流）を案内。

そして、上角谷川へ。

「昔、この川は紫川って呼ばれとってね」と森さん。神山温泉の裏を流れる上角谷川は、川床に青い石と赤い石があって、水を通して見ると、その色が混じって紫色に見えたそうです。

石を積み、水の流れを変えてみる「小さな自然再生」を紫川（上角谷川）で実践。



目の前で変わっていく流れや川床の様子が面白くて、秋の寒さも忘れ、裸足になって川に入り、石を積んでいました。

流域全体で治水について考える「流域治水」と、誰でもが参加できる「小さな自然再生」。神山でも「きっと“何か”繋がっていく。」と感じました。

そして、同じ頃、神山町では、
2021年から新たにスタートする「[まちを将来世代につなぐプロジェクト〈2期〉](#)」の様々な施策の検討が始まっていました。

気候変動や大きな災害の発生を念頭に、自然体験活動が防災教育につながることに、
そのためにも、まずは子どもたちが自然の中で楽しい体験を積み重ねていけないか、
そしてその体験を、ここ神山に暮らす先達たちから学ぶ機会をもてないか。
施策としての検討が行われました。

そして、2期の施策のひとつとして、
「(2-7) 地域の先達に学ぶ、防災教育を兼ねた『子どもの自然体験』の促進」という施策が生まれました。

瀧先生たちが2020年に神山に来られていたのは、この検討を行っていたタイミングでした。

そして、約2年を経た今年。

[景観計画](#)の検討を始めた町の動きもあり、
「流域治水」や「小さな自然再生」についても学んでいけないか、瀧先生に連絡を取ってみました。

奇跡的なタイミングとご縁が重なり、
「小さな自然再生」研修会「行こう、鮎喰川！」を実施することができたのです。

実施した様子はこちら

- [〈その1〉下見@鮎喰川（7月31日～8月1日）](#)
- [〈その2〉本番@鮎喰川（9月10日）](#)
- [〈その3〉本番@鮎喰川（9月11日）](#)

研修会を終えてからも、
「早速、川で石を積んでみたよ！」
「この水草、在来種じゃない？」
「またこんな研修会、するんですよね？」
などなど、嬉しい声が届きました。

WEEK神山では、独自の川づくりワークショップも展開しながら、こんな展示も！



展示の中には、今回の研修をご一緒した滝先生、川塾のベベ、そして私(恐縮です)も。製作の中心は神先まおさん。ステキな作品でした。

また「流域」を意識しながら行う取り組みとして、



川×農「川で遊んでみる日」

「田んぼがダムの役割を果たす、なんて発想したことがなかった・・・」と、「川」に取り組む人と「農(里)」に取り組む人が繋がり、「どんなことができるだろう？」の話し合いもスタートしています。

そして、つなぐ公社の仲間たちとは「神山の先達から学ぶ自然体験」の展開を次年度に向けて計画中。

研修会（1日目）に中止となったプログラム「神山の先達と遊ぼう！」も、10月も終わりを迎える晴れた日に、無事にみんなでやり遂げることができました。



目玉はハイジ並みのブランコ(笑)



アカザ天国だった！



ゴロ引き漁に再挑戦！



ジンゾク！（ヨシノボリ）・・・がちょこっと(笑)



やっとみんなでやり遂げるできた！10月の終わりの晴れた日。

～「誰かに委ねすぎないこと、それが暮らしを守ること」～

「みんなが前向きに、それぞれが考え始めて、できることから始める。

誰かに委ねすぎないことが暮らしを守ることだと思う。」

研修を終えたあと、瀧先生が、こんな風に話してくださいました。

誰かに委ねすぎない暮らし。

そんな暮らしを続けてきたのが、神山で暮らしているみなさんたちだなあと。

神山で出会ってきた方たちのことを、そして、ここで暮らしている日々のことを思いました。

次年度はどんな出会いが生まれ、どんな活動になっていくのでしょうか？

楽しみです。

「できることから始めよう、小さな自然再生」！

この町で生まれていく取り組みを、大切に育てていきたいと思います。



11月の晴れた日。上角谷川（紫川）にて。

いいね！ 1

シェアする

ツイート



田中 泰子（神山つなぐ公社 安心な暮らしづくり担当）

» [田中 泰子の他の記事を見る](#)

■ 小さな自然再生研修会 「行こう、鮎喰川」〈その1〉

<https://www.in-kamiyama.jp/diary/70050/>

■ “小さな自然再生” 研修会 「行こう、鮎喰川」〈その2〉

<https://www.in-kamiyama.jp/diary/70151/>

■ “小さな自然再生” 研修会 「行こう、鮎喰川」〈その3〉

<https://www.in-kamiyama.jp/diary/70224/>

■ “小さな自然再生” 研修会 「行こう、鮎喰川」〈その4〉

<https://www.in-kamiyama.jp/diary/71108/>

参考資料 3 – 地元向け参加者募集チラシ（表面）

あくいがわ

『行こう、鮎喰川！』

川名人と遊び・学び・実践する2日間

9/10 (土)

(小学生～大人)
13:00-15:30 **遊ぼう!** @神領 鮎喰川

● **神山の先達と川遊びを体験しよう**

(高校生～大人)
17:00-19:30 **学ぼう!** @農村環境改善センター3F

地域の防災につなぐ できることから始めよう

● **「流域治水」と「小さな自然再生」**

9/11 (日) @広野→下分→神領 鮎喰川

(高校生～大人)
9:00-15:00 **やってみよう!**

● **実践「小さな自然再生」**

鮎喰川本流と支流、それぞれ3カ所の川でできる「小さな自然再生」を実践します。

- ・川の流れを変える石積み
- ・茶色い苔がついた石磨き
- ・外来植物を取り除く 他

神山のおじいちゃんたちは「鮎喰川」というと子供の頃の川遊びの思い出やユニークな漁法を次々に語ってくれます。それはそれは楽しい世界。一方で気候変動に伴い未曾有の水害が起きている今。私たちは「地域の先達に学ぶ、防災教育を兼ねた“こどもたちの自然体験”」の場を、地域の皆さん、そして川のプロフェッショナルの講師の皆さんと共にやっていきたいと考えています。

この事業は、第15回「小さな自然再生」現地研修会として行われます。

参考資料 3 – 地元向け参加者募集チラシ（裏面）

鮎喰川

とともに生活してきた神山町では、おとなも子どもたちも川と共に暮らしてきました。かつては、家族や地域の先輩を通じて、川のおそび方や楽しさだけではなく、危なさ怖さを学んでいたと言います。川は豊かな恵みを与えてくれる一方で、災害や事故も生み出します。今回、川のプロフェッショナルをお迎えし、町内各地で「遊ぶ」「学ぶ」「やってみる」という2日間のプログラムを実施します。将来世代がこれからも豊かな環境とともにあるために、私たちと川の関係を考えてみる2日間です。（広野小学校では9月9日（金）に5年生の皆さんと川の特別授業を予定しています※一般参加不可）

プログラム

1

遊ぼう編 神山の先達と川遊びを体験しよう

日時：9月10日（土）13:00～15:30

対象：小学1年生～大人（15名）

集合：創造の森駐車場（上角郵便局からコットンフィールドへ向かう道沿い右側）

服装：濡れても良い格好、マリンシューズや濡れてもいいスニーカーなど（かかとがある靴）

持ち物：帽子、タオル、着替え、飲み物等（お子様の持ち物には必ず名前を書いてください）



プログラム

2

学ぼう編 「流域治水」と「小さな自然再生」

日時：9月10日（土）17:00～19:30

対象：高校生～大人（20名）

開催場所：神山町農村環境改善センター3F

講師：瀧健太郎（滋賀県立大学環境科学部）、「小さな自然再生」研究会



プログラム

3

やってみよう編 実践「小さな自然再生」

日時：9月11日（日）9:00～15:00

対象：高校生～大人（20名）

開催場所：3つのポイントを移動しながら、その川にあった「小さな自然再生」にチャレンジ！どのポイントからでも自由に参加できます。もちろん帰るのも自由です。お申込の際に「全参加」or「部分参加」についてお伝えください。

服装：濡れても良い格好、マリンシューズや濡れてもいいスニーカーなど（かかとがある靴）

持ち物：昼食、帽子、作業ができる手袋（軍手など）、タオル、着替え、飲み物等

ポイント① 9:00～11:00 頃 広野小学校下の川（集合場所&駐車場：広野小学校運動場）

ポイント② 12:30～14:00 頃 WEEK 神山の下の川（集合場所&駐車場 WEEK 神山）

ポイント③ 14:30～15:00 神山温泉裏の川（集合場所：創造の森駐車場） 解散



主催：一般社団法人神山つなぐ公社

共催：「小さな自然再生」研究会

日本河川・流域再生ネットワーク

協力：神山町、滋賀県立大学環境学部瀧研究会

公益財団法人リバーフロント研究所

お問合せ・お申込み／神山つなぐ公社（担当：田中・秋山）

電話 050-2024-4700

メール contact@tsunagu-local.jp



申込は人数に達し次第、締め切ります。なお、コロナウィルスの感染拡大等によって、開催を延期もしくは中止する場合がございますので、ご了承ください。

参考資料 4 – 参加者募集チラシ（表面）



【開催趣旨】 創生戦略「まちを将来世代につなぐプロジェクト」を進める徳島県神山町。その中央を流れる鮎喰川は、古くから地域の人びとの暮らしと密接に関わり、神山らしい文化を育んできました。本研修会では、神山町で受け継がれてきた川遊びの体験を通じて川の文化に触れ合うとともに、地域と鮎喰川のつながりを更に深めていくために「小さな自然再生」でできることは何か、座学と実践を通じて参加者とともに学び合います。

開催日時	令和4年9月10日(土) 13:00~19:30、 11日(日) 9:00~15:00	
会場	徳島県神山町 <座学: 神山町農村環境改善センター / 現地: 鮎喰川>	
対象	小さな自然再生に関心のある方々	
定員	35名(先着順)	新型コロナウイルス感染拡大状況により参加者数を縮小したり、中止する場合があります。
参加費	無料 ※食事代、宿泊費は各自負担をお願いします。	※参加申込方法、会場へのアクセス、問合せは裏面をご覧ください。
持ち物	川の中で滑らない靴(鮎たび等)、作業用手袋、昼食	
プログラム	※プログラム及び講演タイトルは一部変更の可能性もあります。 ※主催者側で行事保険に加入いたします。	

9月10日(土)	
(12:50)	神山四季の里創造の森 駐車場 集合
(13:00-15:30)	<現地研修> 神山の先達と川遊びを体験する @鮎喰川・神領地区
(15:30~17:00)	自由時間(休憩)
(17:00~19:30)	<座学研修> 「流域治水」と「小さな自然再生」
	- 開会挨拶:
	- 講演: 流域治水と小さな自然再生(龍健太郎: 滋賀県立大学環境科学部)
	- 意見交換: 小さな自然再生の具体事例を学びながら神山町でできることを考える(話題提供: 「小さな自然再生」研究会)
9月11日(日)	
(9:00~15:00)	<現地研修> 小さな自然再生の実践 @鮎喰川・広野地区/下分地区/神領地区
	- 鮎喰川の3箇所、川を耕し、川底を磨き、石を積み、外来種を駆除して、多様な流れと魚の棲み処をつくる
(15:00)	閉会 ※神山温泉周辺で現地解散



公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。

主催: 一般社団法人神山つなぐ公社、「小さな自然再生」研究会、日本河川・流域再生ネットワーク
協力: 神山町、滋賀県立大学環境科学部・龍研究室、公益財団法人リバーフロント研究所

参考資料 4 – 参加者募集チラシ（裏面）

会場のご案内

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、本研修会では参加人数（定員）を従来より制限し、また参加者移動のための貸切バスも手配しませんので、研修会場へは、お車でお越しください。

■ 9/10(土) 現地研修集合場所

神山四季の里創造の森 駐車場

■ 9/10(土) 座学研修会場

神山町農村環境改善センター



申込み方法

※神山町内にお住まいの方は、神山つなぐ公社ホームページ（イン神山）内の案内を通じてお申込みをお願いします。 <https://www.in-kamiyama.jp/events/68709/>

必要事項（氏名・所属・連絡先等）を明記の上、E-mailでお申込み下さい。

申込み切日：令和4年9月5日（月） 17:00

E-mail： info@a-rr.net

項目	記入欄
(ふりがな) 氏名	
所属	
連絡先	〒
	住所：
	電話：
	Email：

※記入された個人情報、厳重に管理した上で、JRRNが主催する行事等のご案内に利用させて頂く場合がございますので、ご了承願います。

【お問合せ】 日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局 (担当：和田彰・白尾豪宏)
 〒104-0033 東京都中央区新川1-17-24 NMF茅場町ビル7階 (公財) リバースフロント研究所内
 Tel: 03-6228-3861 Fax: 03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net
 Website: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

(MEMO)



「小さな自然再生」現地研修会（第15回）開催報告

～ 2022年9月10日（土）～11日（日） 徳島県神山町・鮎喰川 ～

2023年3月31日

【発行】

日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）

〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 NMF茅場町ビル7階

公益財団法人リバーフロント研究所 内

電話:03-6228-3861 Fax: 03-3523-0640

E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

※JRRN事務局は、公益財団法人リバーフロント研究所が公益を目的に運営を担っています。